

## 高温に対する農作物等の技術対策について

令和6年5月1日  
技術総合調整担当

気象庁発表の「夏の天候の見通し（6月～8月）」や「向こう3か月の天候の見通し（5月～7月）」によると、今年の夏は暖かい空気に覆われやすく、気温は全国的に高い見込みと予想されており、農作物の生育等への影響が懸念されます。農作物等の適切な管理をお願いいたします。

高温が続くことにより、農作物の生育状況に応じて、生育ステージの急激な前進や遅延が想定されます。農作業計画の適切な見直しや、農業資材等の確保に留意してください。また、病虫害防除所による病虫害発生予察の収集に努めてください。なお、農薬の使用に当たっては、葉焼け等の薬害の発生を避けるように早朝等、気温の低い時間帯に散布してください。

暑熱環境下での作業は熱中症を生じるおそれがあります。日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うことや、水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること等に注意してください。

### 1 野菜

#### (1) 全般

- ア かん水は地温が低下している早朝・夕方に実施する。また、敷きわらやもみ殻で土壌を被覆し、地温上昇の抑制と土壌水分の蒸発抑制に努める。
- イ 園芸用施設は、妻面・側面を開放するとともに、寒冷紗等遮光資材を使用し、施設内の温度上昇を抑制する。
- ウ こまめな除草や側枝、弱小枝、下葉を除去し、風通しを良くする。
- エ 育苗箱は、コンテナやブロックでかさ上げし、風通しを良くする。
- オ 無理な土寄せ等は根を傷めるので避ける。
- カ ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病虫害については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

#### (2) 特に葉茎菜類

- ア 育苗中のブロッコリー、キャベツ等は、適宜遮光を行い、発芽をそろえるとともに、発芽後の蒸散を抑える。かん水は、徒長しないように早朝を主とし、乾燥が激しいときは夕方に葉水等の補助かん水を行う。
- イ 乾燥によるチップバーンを防止するため、薬剤防除時にカルシウム剤を混用する。

#### (3) 特に果菜類

- ア 不良果の摘果、若どりを行い、着果負担の軽減を図るとともに、適宜施肥により草勢維持と成り疲れを防止する。
- イ 老化葉、黄色葉を中心に摘葉を実施し、蒸発を抑制するとともに、かん水による土壌水分の急激な変化に留意する。
- ウ カルシウム欠乏、鉄欠乏、ホウ素欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉

面散布を行う。

## 2 果樹

### (1) 干ばつ対策

ア 敷わら、敷草等により、土壤水分の蒸発を極力抑制しつつ、適宜かん水を実施する。かん水に当たっては、かん水設備の漏水・目詰まり等がないよう、事前に点検を行う。

イ 草生園においては、干ばつ期の下草刈りを実施し、果樹と草との養水分の競合を防ぐ。

### (2) 高温対策

ア 高温によって果実の日焼けが発生しやすい園地においては、各種資材による遮光やスプリンクラー使用等の対策をとる。

イ 収穫期を迎える果実については、着色不良を防止するため、剪定や反射シートの活用による光環境確保の取組みによって、着色を促す。

ウ 着色が遅延することに伴い収穫時期が遅れ果実が過熟とならないよう、適宜、糖度を確認するなど、適期収穫に努める。

### (3) 病虫害対策

ア 干ばつ時に発生し易いハダニ類については、発生動向に十分注意し、発生初期からの防除を実施する。なお、農薬の使用に当たっては、収穫前日数等、登録内容に注意する。

## 3 花き

(1) 露地栽培は、敷わら等のマルチを用いて、土壤水分の蒸発防止に努める。

(2) 施設栽培は、遮光ネットなど遮光資材や細霧冷房装置を用いて、気温や地温、植物体温の上昇を抑える。また、妻面・側面の開放や換気扇や循環扇等により、施設内の通風を図り、室温の上昇を抑える。

(3) 切り花については、朝・夕の気温の低い時間に採花し、常温で長時間放置しない。できれば保冷庫で保管して出荷する。

(4) ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

## 4 家畜

(1) 飼育密度の緩和や、畜体等への散水・散霧により、家畜の体感温度の低下を図るとともに、換気扇等による送風、換気、寒冷紗やよしずによる日除け、屋根裏への断熱材の設置及び屋根への消石灰の塗布等、畜舎環境の改善を図る。

(2) 良質で消化率の高い飼料及び清浄で冷たい水を給与すること。飼料給与は涼しい時間帯に回数を分けて行う。餌槽はこまめに掃除し、変敗した飼料が残らないようにする。

(3) ビタミンやミネラルの要求量が高まるため、必要に応じ量を増やす。また、油脂や重曹の給与も有効性が認められているため、必要に応じて適切な量を給与する。